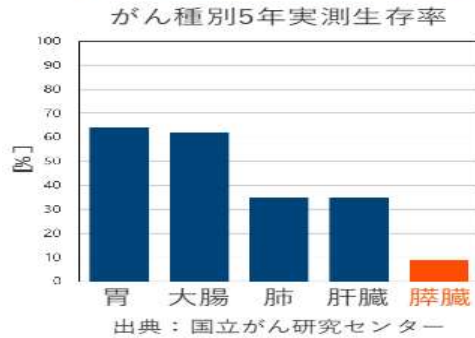


すい臓がん幹細胞をターゲットとしたすい臓がんの診断および治療用モノクローナル抗体の開発

◇すい臓がん治療の現状

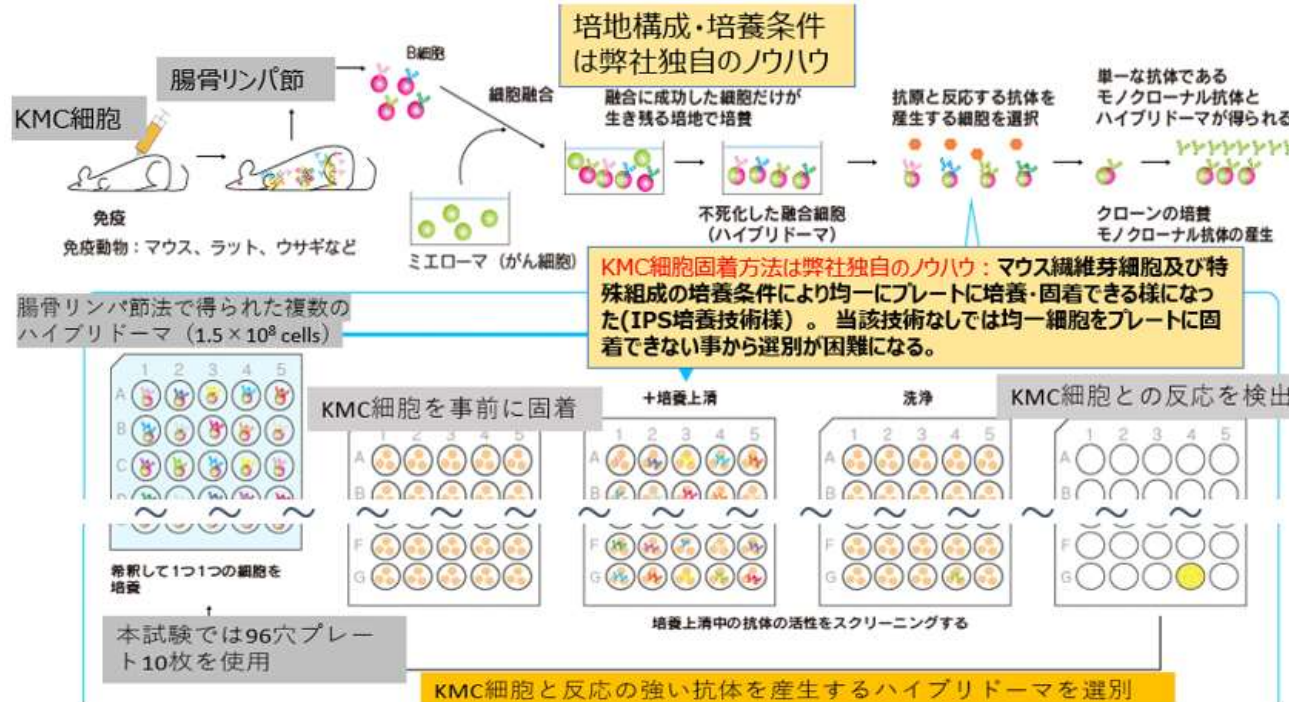


最も予後の悪いがん

- ▶ 早期発見が難しい
- ▶ 既存の治療法では効果が不十分

標準治療として ゲムシタビン等の抗がん剤を使用  
→抗がん剤耐性を獲得する

- ✓ 早期発見が難しく、最も予後の悪いがんであるすい臓がんをターゲットとした創薬事業。既存抗がん剤の課題は、がん幹細胞以外には効果があるが幹細胞が耐性を獲得して死滅させられないために増殖抑制が困難な点にある。
- ✓ 当社は既存抗がん剤に抵抗性を持つがん幹細胞をターゲットにしたモノクローナル抗体を独自に開発。



- ✓ 抗がん剤耐性のすい臓がん幹細胞(= KMC 細胞[神戸大])の培養に成功。(KMC : Kobe Medical Center で樹立された株に由来)
- ✓ このがんの親玉細胞であるすい臓がん幹細胞をターゲットにし、独自の高効率・高精度抗体培養技術(ショットガン法)を駆使して、多種多様な抗体を作製し、治療薬の開発を推進している。